

果樹

落葉果樹の植え付け

年末から春先にかけては、落葉果樹の植え付け時期となります。

あまり難しく考えることはありませんが、植え付け方でその後の生育に大きな差が出てきますし、簡単にやり直すこともできません。事前に十分に検討して、失敗しないように行いたいものです。

◎植え付け場所の事前確認

果樹は一度植え付けると基本的には動かせませんし、植え付け後に本格的な土壌改良を行うのも難しいものです。実際に圃場を見ると、「植えた時点で失敗している」といった残念な場面も少なく見かけます。植え付ける前に確認を行い、必要なところは改善しておくことが重要な作業となります。

・日当たりは大丈夫ですか？

日当たり不足では成育も問題ですが、糖度や着色など果実の品質も不良となります。

・水はけは問題ないですか？

果樹は根が深いので排水不良地には適しません。必要な場合には、植え付け前に暗渠を入れたり高畝にするなど事前の土壌改良を行っておく必要があります。

・広さは十分にありますか？

樹種ごとに適正な広さがあります。ちなみに、一般的なモモでは木一本当たり10m×10m程度が適正な広さです。多少狭くても栽培出来ませんが、狭すぎると栽培が難しいことに加え、高品質な果実は生産できません。

・その場所に適した果樹を植えようとしていますか？

適地適作が基本です。土地に合わないものを植えても「労多くして益少なし」になってしまいます。

園芸

アブラナ科野菜の害虫と菌核病

アブラナ科野菜は、病害虫の被害を受けやすい品目です。多くの害虫が存在しますが、今号では、アブラナ科専門の害虫の一部と、キャベツで発生しやすい菌核病について説明します。

◎ハイマダラノメイガ

シンクイムシとも呼ばれます。キャベツやブロッコリーなど、アブラナ科野菜の生長点付近の芯葉を綴り合わせて食害します。食害されたら芯が止められてしまい、キャベツ、ハクサイなどの結球野菜は正常に結球できなくなり、減収に繋がります。特に、夏期高温乾燥時に発生が多く見られるため、夏まき作型のアブラナ科野菜の育苗では、とくに注意する必要があります。本葉が1枚展開した頃から被害が見られますので、よく観察して、早期防除に努めてください。



ハイマダラノメイガ



結球できなかつたキャベツ

◎キスジノミハムシ

幼虫が根を、成虫が葉を食害します。幼虫による食害では、根が迷路状に食害され外観を損なうので、ダイコンでは特に被害が大きいです。成虫は葉に円形の穴を空けます。

とが多いです。

◎植え山の準備

圃場が決まり、事前確認も済んだら植え山を準備します。堆肥や土壌改良資材が土になじむ期間が必要ですので、少なくとも植え付けの1ヶ月以上前を目処に行います。

◎植え付け位置の確認

成木になった時の広さを想定して位置を決めます(樹間距離は十分にありますか?)。

※一段目の・広さは十分にありますか?を参照。

植え付け時は、苗も小さく樹と樹の間がやたら広く見えるものです。実際に距離を計って決めるのが良いでしょう。

◎植え山の改良

植え付け場所が決まったら周辺を掘り返し、必要に応じて、完熟堆肥、苦土石灰、熔りん等を混和します。

※新しく出た根が傷むので、肥料は混和しないことと、未熟堆肥は混和しないことが重要です。

◎土を寄せて直径2m程度の植え山を作る(図)。

※必ず土を寄せて山にします。年数が経過しても樹の根元が周りより高く維持され、雨水が外へ流れることが重要です。掘り返しただけで土寄せをしない場合、何年か経つと元の高さまで下がって水が抜けなくなります。

◎植え付け時期

植え付け時期は、秋植えと春植えがあります。

●秋植え…12月上旬～中旬

●春植え…3月上旬～4月の発芽前

どちらでも構いませんが、秋植えは防寒・乾燥対策が必要になります。

◎仮植え

植え付けまでの期間が長い場合は仮植えを行う。根の乾燥・枯死を防ぐことが必要です。

仮植えは、肥料分の少ない川砂や真砂土を浅く



キスジノミハムシ



軟腐病

また、キスジノミハムシの食害痕から軟腐病が発生することもありますので合わせて防除を行いまししょう。

◎ダイコンサルハムシ

気温が20℃前後に下がった晩夏から活動を始めます。普通は、局地的に発生し、成虫には翅がありますが、飛ぶことはなく歩いて移動します。葉の葉脈だけを残り、網目状になるのが特徴です。農業に弱い虫ですが家庭菜園で多く見られる害虫です。



ダイコンサルハムシ
上が幼虫 下は成虫



◎菌核病

菌核病菌は多くの作物に感染しますが、特にキャベツで被害が多く見られます。発病後期になると防ぐのは困難なので、早めの予防をしましょう。

掘り、苗の束をほどいて斜めにして広げ、その上から川砂や真砂土をかけ、苗の先端を残して埋めておきます。

◎植え付け時の注意点

◎苗木の根の切り戻し

植える前に徒長的な根や先端の傷んだ所で切り戻しておきます。

◎ごく浅植えに

根は絡まないように四方に軽く土をかぶせま(指1〜2本程度)。このままでは倒れるので、倒れないように支柱を立て、それに固定します。※深植えは生育不良の原因になることが多いので厳禁です。また、果樹では株元への土寄せも良くありません。

◎先端の切り戻し

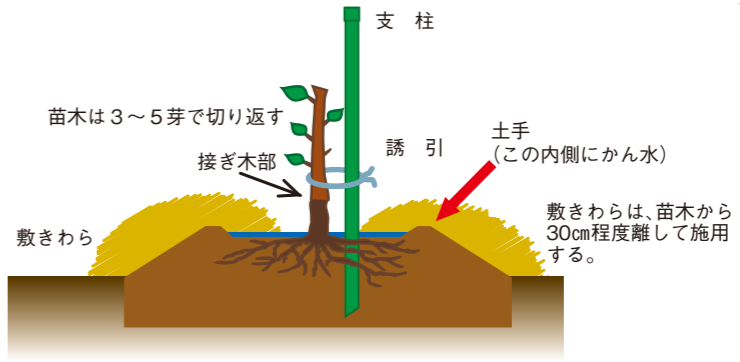
通常は、植え付け時に3〜5芽程度残して先端を切り返すと作りやすいでしょう。

◎植え付け後の管理

植え付けたら、十分灌水して土と根をなじませます。

また、植え付け後、梅雨時期までは乾燥させないように適宜灌水すると良いでしょう。

(営農部 渡辺 昭彦)



発生時期

4〜5月、10〜11月に発生が多い。この時期に結球する作型では、特に注意が必要になります。

菌の特徴

本菌は土壌中にある菌核が伝染源となります。菌核は春と秋に気温が20℃前後になり、曇雨天が続くとキノコを形成します。キノコから出る胞子は、風につけて数100m飛散し、下葉や葉柄の傷口について発病がはじまります。最初は、葉の基部に近い部分に水浸状の病斑を生じます。下葉などがしおれていたら、基部を確認してみましよう。さらに病徴が進展すると、病斑部に白色のカビを生じ、結球葉に移り、軟化腐敗していきます。最終的にはネズミの糞に似た黒色の菌核を生じ、伝染源となります。このように本菌は菌核↓子のう盤(キノコ)↓子のう胞子↓菌糸↓菌核の生活サイクルをくり返します。



菌糸



菌核

対策

○薬剤防除をして菌糸と菌核の形成を防ぐ。

○薬剤散布は展着剤を入れて結球葉と下葉の間に十分かかるように散布する。

○発病株は菌核が形成される前に速やかに抜き取り、圃場外で処分してください。菌糸と菌核を圃場に残すと次回作でも発病する可能性が高くなります。

(営農部 高本 翔太)